

おわりに

これまで本研究所の聴覚障害教育研究班では、聴覚障害児童生徒の教科指導の充実に資するため、教材の保有と活用に関する調査・研究、授業実践に基づく研究を進めてきました。本研究の1年次は、聴覚障害教育における国語科指導で継承・共有すべき専門性として、教材の考え方・在り方と効果的な活用について、授業実践と研究協議を通して明らかにしてきました。

研究2年次は、算数・数学科において2校で3回の授業研究を行い、教科のねらいと児童生徒の実態に応じた指導について、明らかにすべき点を検討しました。また、自立活動においては、3校で6回の授業研究を行い、聴覚障害教育における自立活動の方法・内容について多くの知見を得ることができました。

本研究を進めるに当たり、研究協議会での話題提供、各研究協力機関での授業研究会の実施など、多大なご協力をいただいた研究協力機関の青森県立青森聾学校、福島県立聾学校、東京都立大塚ろう学校、長野県長野ろう学校、静岡県立静岡聴覚特別支援学校、佐賀県立ろう学校の皆様、また、研究協力者として研究協議会や授業研究会において貴重なご助言をいただいた広島大学大学院の谷本忠明先生に感謝申し上げます。

聴覚障害教育の専門性の維持・継承・発展は、授業研究が中核であることを再認識いたしました。

本報告書は、事前調査を行った予備的準備的研究を含めると3年間のまとめとなります。紙面の都合上、研究協力機関における実地調査やアンケート調査の全ての内容を掲載することができないことをお詫びいたします。今後、本研究で明らかにした教材活用の考え方や配慮事項等の情報が、聴覚障害児に対する教育における指導に寄与することを願っています。

なお、本研究では、聴覚障害児が学ぶ難聴特別支援学級、通級による指導（難聴）、通常の学級等における指導者を対象にした理解啓発資料（Q&A集）を作成いたしました。その冊子の主たる目的は、初めて聴覚障害の教育に当たる小・中学校の先生や聾学校の先生に対して、主な指導場面を50抽出しました。50のQは、研究協力機関より、学校現場での研修事項や小・中学校からの問い合わせの頻度の多いものを出し合い、特に重要と思われたものを選定したものです。小誌が今後インクルーシブ教育システムの構築に資する資料として活用されることを願っております。

（研究代表者 原田公人）

専門研究B

**聴覚障害教育における教科指導及び自立活動の充実に関する実践的研究
～教材活用の視点からインクルーシブ教育システム構築における
専門性の継承と共有を目指して～**

平成 26 年度～平成 27 年度

研究成果報告書

研究代表者 原田公人

平成 28 年 3 月

著作 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

発行 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

〒 239-8585

神奈川県横須賀市野比 5 丁目 1 番 1 号

TEL：046-839-6803

FAX：046-839-6918

<http://www.nise.go.jp>

